

令和5年度 第1回 横浜市自転車等施策検討協議会 会議録	
日時	令和5年11月8日(水) 14:00~16:00
開催場所	ナビオス横浜 2階 会議室「カナル」
出席者	岡村委員(会長)、青木委員、秋和委員、井上委員、岡崎委員、絹代委員、五反田委員、佐竹委員、佐藤委員、鈴木幸委員、福田委員、吉田委員 計12名 (うち、吉田委員についてはオンラインによる出席)
欠席者	小嶋委員、後藤委員、酒井委員、鈴木潤委員、関上委員、馬場委員 計6名
開催形態	公開(傍聴者0名・報道関係者0名) ※オンラインでの傍聴回数20回
議題	1 横浜市自転車活用推進計画 各施策の実施状況について 2 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験事業評価部会の開催状況について
議事	<p>1 横浜市自転車活用推進計画 各施策の実施状況について (事務局) ※説明資料に基づき、「各施策の実施状況について」説明 (鈴木幸委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 青葉区区政推進課でも川崎市と連携して、シェアサイクルや脱炭素などのテーマ性を持った謎解きイベントを企画している。シェアサイクルなどでの移動が不便な部分はバスを活用して巡ってもらうなど、東急バス株式会社にも、イベントについてご協力いただいている。 <p>(絹代委員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 謎解きイベントについては、シェアサイクルの利用を想定しているか？ また、その場合、一般の方が「シェアサイクルでこのように楽しみながら回れる」というイメージが持てるような情報や、シェアサイクルの魅力に気づくきっかけになる情報もあわせて、分かりやすく発信した方がよい。参加費については、少し高いと感じたが、市民がシェアサイクルを利用し、家族で参加できるということであれば、いい切り口だと思う。なお、謎解き冊子については、家族で参加した場合、一人一冊の購入ではなく、ひと家族一冊の提供とするなど、イベント参加への敷居を下げるような工夫もしたほうがよい。 はまっ子交通あんぜん教室を見学した際の指導内容が、自転車が歩道を通行する乗り方やルール等を教えているもので、私にとっては少々衝撃的だった。教室を開催するにあたっては、「何を子どもたちに伝えないといけないのか」という目標やビジョンを共有する必要がある。 交通安全教室については、効果測定や内容の評価等を行い、自治体がモチベーションをもって取り組めるような体制を作っていかなければならないという話し合いを、警察庁や他の自治体とも進めている。 自転車交通安全教室は、自転車が歩道を通行することで起こる事故を減らすことを目標とし、自転車は車道を通行することが基本であり、子どもが将来的に自転車で車道を通行するときのサポートとなるよう、現在の道路交通安

全事情に合った内容にシフトしていただきたい。

- ・ はまっ子交通安全教室では、「ぶたはしゃべる」という標語を用いて、自転車の事前点検を促していた。ベルは人に対して鳴らしてはいけないものであり、必ず発車前に鳴らそうという指導に疑問を感じた。サドル高の話をするものの、明らかに不適正なお子さんも調整することなく実技を行わせていた。今後は関係者全員がビジョンを共有し、考え方や行動変容につながるような指導内容にするように変えていただきたい。
- ・ スケアード・ストレイトについては、科学的に効果が期待できないものとされているが、なぜ、実施回数を減らさないのか？
- ・ 思いやり SHARE THE ROAD 運動については、スペルが読めない、こういった内容の運動なのか理解できないという方々も多いと思う。皆に意味がわかり、どういう意図なのかが届くようなメッセージの発信に切り替え、道路をシェアし市民が安全に通行できることを目指す効果的な施策としてほしい。

(事務局)

- ・ 謎解きイベントについては、横浜市広域シェアサイクル事業社会実験の区域が3つに分かれていることから、シェアサイクルを使って参加していただけるよう配慮し、謎解きイベントも3区域に分けてルートを設定した。普段、自転車をあまり利用されていない方にも、自転車の魅力や使い方を知っていただく機会となればよいと考えている。イベントの周知については、既に開催している状況ではあるが、いただいたご意見を踏まえて、今後、考えていきたいと思う。
- ・ はまっ子交通あんぜん教室は、市内で200を超える学校で行っており、学校によって多少内容が異なっていると思う。自転車は車道を通行するのが原則ではあるが、例外である歩道通行を含めて、子どもたちに分かりやすく伝えられるようにするためにはどのようにすればよいかという課題もあると思う。はまっ子交通あんぜん教室は、横浜市交通安全協会や地域の方々と連携して行っているため、いただいたご意見については、関係各所と共有できるようにしていきたい。また、交通安全教室の評価やビジョンについても、はまっ子交通あんぜん教室だけでなく、市が行っている教室などでも、何を伝えていくべきかということ、今一度整理する必要があると考えている。
- ・ スケアード・ストレイトについては、横浜市交通安全実施計画の中でも位置付けられているもので、例年実施しており、今年度は11区での実施を予定している。今後の対応については、交通安全施策の中で検討の余地はあると思うが、本市としては必要と考えているため、実施している。
- ・ 思いやり SHARE THE ROAD 運動については、確かに言葉を聞いただけでは分かりにくいという側面があるが、言葉だけではなく、考え方もあわせて伝えていくことが必要だと思う。そういった点を含めて、広く浸透させられるよう、継続的に取り組んでいきたいと考える。

(岡村会長)

- ・ 大変重要な指摘である。少しずつでも着実に実施していただきたいと私も考えている。

(吉田委員)

- ・ テーマ「まもる」における実施状況について、新型コロナウイルス感染拡大（以下「コロナ」という。）前とコロナ収束後である令和5年9月時点で、どのような変化または傾向があったか教えて欲しい。
- ・ 謎解きサイクルイベントについて、市や市民・民間事業者が連携して施策を実行していくということは非常に良い取組であり、こうした事例を増やしていくことも重要だと考える。今回のイベントに際し、共創フロントを通じ、市としてどのような課題認識を提示し、それに対して、民間事業者はどのような提案をしてきたのか教えて欲しい。

(事務局)

- ・ テーマ「まもる」におけるコロナ前後の実施状況について、はまっ子交通あんぜん教室の実施回数はコロナ前と比べて、ほぼ同じ水準で推移している。また、中学生・高校生向け自転車交通安全教室や幼児交通安全訪問指導についても、現時点では、コロナ前とほぼ同等の回数を実施できている状況である。
- ・ 例年、実施してきたサイクルスタンプラリーのイベントでは、日常的に自転車に乗っている方への周知はできていた。一方で、イベントを通して、日常的に自転車に乗らない方に対する自転車の利便性や魅力、ルール等の周知やイベント企画、参加数の増加が課題であった。そうした中で、共創フロントを通じ、謎解きというコンテンツを用いて、自転車とコラボするイベント企画を AXELL 株式会社より提案いただき、この度、開催に至った。こういった結果になるかは現段階では分からないが、参加者からのアンケート結果等を踏まえ、来年度も誰もが楽しめるようなイベントを開催していきたいと考えている。

(佐藤委員)

- ・ 質問ではなく、先ほどの絹代委員の発言について、警察として補足の説明をさせていただく。
- ・ はまっ子交通あんぜん教室で使用している「ぶたはしゃべる」という標語における「べる」の警音器について、標識があるところや坂の頂上付近、曲がり角など、道路交通法上、指定または法定で定められているところについては、車両の運転者として警音器を鳴らさなくてはならない義務がある。そして、その義務がある以上、警音器についても、車両の保安基準に定められているものであるため、整備点検が必要である。
- ・ 重要なのは、子どもにどうやって伝えるか？ということであり、一番大切なのは、「人をどかすためにベルを鳴らすのではない」という使い方をしっか

り教えること。自転車は子どもから大人まで乗り続けるものであるので、子どものころから正しい知識やルールについて、言葉を選びつつ、教えていく必要がある。

(絹代委員)

- ・ 発言の時間が限られているため、簡略な言葉で、誤解を招く発言だったことをお詫び申し上げたい。発車前のベルの確認については、「人に対して鳴らしてはいけないけれど、点検をしよう」と一言付け加えて指導するだけで、意義が変わってくると思う。「こういう時に鳴らす」ということも踏まえて教えないと、子どもたちが普段から鳴らしてもいいものと誤解してしまう可能性がある。自分たちが実施するスクールでは、そうした点も踏まえて、車体に揺らぎがある場合の音やサドルの高さを示すなど、具体的に子どもたちに伝わる言葉を使って車両点検を教えているが、自分が参加したはまっ子交通あんぜん教室では、子どもたちに対する指導者の説明が簡単なもののみだったため、残念に感じた。

2 横浜市広域シェアサイクル事業社会実験事業評価部会の開催状況について

(事務局)

※説明資料に基づき、「各施策の実施状況について」説明

(福田委員)

- ・ テーマ「とめる」において、放置自転車台数の推移について、昨年からの微増となった要因は何か？
- ・ 横浜市広域シェアサイクル社会実験事業について、ポート数やラック数、利用者数について、区域または事業者ごとの数字や詳細について、教えてほしい。

(事務局)

- ・ 放置自転車台数の増加の要因については、明確に分析できているわけではないが、市営自転車駐車場の利用状況などを見ると、自転車についてはコロナ前とほぼ同じ水準まで回復してきており、コロナ禍の時と比べ、社会全体に動きが出てきている関係で、自転車利用が増加している可能性が考えられる。
- ・ シェアサイクルの区域ごとのポート数は、北部区域は OpenStreet 株式会社等が事業を行っており 169 か所、中部区域は株式会社ドコモ・バイクシェアが事業を行っており 67 か所、南部区域は OpenStreet 株式会社等が事業を行っており 73 か所となっている。また、区別で見た場合に、広域エリアでポート数が一番多い区は港北区である。

3 閉会

資

料

1 資料

・ 特 記 事 項	(1) 次第 (2) 委員名簿 (3) 説明資料 2 特記事項 今回は、令和6年3月頃に開催予定。開催日時・場所は、後日お知らせします。
--------------	--